

..... 編集後記

◆ 今月号は、中越地震に関する川口町報告会の特集(口絵2編・本文10編)とその他個別報告4編です。地質学は地下資源の開発とともに進歩してきましたが、昨今では地震・火山・地すべりなどの災害に関する研究が進んでいます。そこでは、地質のみならず、地域住民の生活との関連を総合的に検討する視点が求められています。

◆ 川口町報告会の特集では、中越地震から1年半経過した時期に開催された地元報告会の様子が紹介されています。この報告会では地元住民との対話を重視して、報告者全員が地域住民の声に謙虚に応えようと努力しています。その結果、通常の研究調査ではなかなか触れられない地域住民の真の要求が浮き彫りにされています。また、彼らの体験に基づく地域間での振動の違いが、原因究明への動機付けを与えています。小松原さんは報告会開催の企画について報告しています。吉見さんは地震動の揺れ方と建物の倒壊との関係について報告しています。卜部さん・本郷さんは地震による建物倒壊の度合いと地盤特性との関連を報告しています。先名さんは微動探査による地盤の揺れやすさ分布について報告しています。宮地さんは扇状地堆積物の厚さが揺れ方の違いの原因であるとの報告をしています。内山さん・井口さんは地震による斜面変動の分布と地すべり危険度評価の適用可能性について報告しています。小松原さん・吉川さんはハンドマッサージ器を使ったミニ振動台の試作について報告しています。小松原さん他は震災の教訓について簡潔にまとめています。本郷さんはアンケート調査結果から、地

元住民の生の声を報告しています。小松原さん他は報告会の裏方として報告会の様子をまとめています。その中で、地元住民との心温まるやり取りなども紹介されています。

◆ 上野さん・地下さんは、1,000名以上の犠牲者がでたフィリピン、レイテ島の地すべり災害地の緊急調査を行って、熱水変質粘土と断層が主な成因であったと報告しています。

◆ 有田さんと須藤さんは、シリーズ「砂と砂浜の地域誌(8)」として東土佐の海岸を報告しています。現在の砂浜の様子と砂岩泥岩互層、海底地すべり堆積物、舌状漣痕、砂岩岩脈などの露頭が紹介されています。

◆ 吉田さん・近藤さんは、第5回活断層研究センター研究発表会「連動型巨大地震」について、報告しています。この発表会では講演が6件、ポスター発表が24件なされました。講演についてはその要旨と質疑応答が、また総合討論についてはその内容が記録されています。参加者は237名に達し、大変盛況でした。

◆ 高橋裕平さんは、国際英文ユース誌から最近の地質分野でのトピックを拾って、環境問題や気候変動などの社会と関わり深いテーマが多くなっていると指摘しています。

◆ 以上のとおり、今月号は災害に関わる報告を主体にお届けしました。今後の災害調査のあり方について、示唆に富んだ内容だったと思います。次号以降も興味深い原稿をお届けしますので、ご期待下さい。(玉生志郎)

地質ニュース編集委員会

委員長：玉生志郎

副委員長：吉田朋弘

委員：高木哲一・丸山 正・七山 太・

光畑裕司・酒井 彰・高橋裕平

連絡先：地質調査総合センター

地質ニュース編集委員会事務局

〒305-8567 茨城県つくば市東1-1-1

Tel. 029-861-3754

Fax. 029-861-3746

地質ニュース	第622号	2006年	6月号
	定価 ¥785 (本体価格 ¥748) 千実費		
2006年6月1日	発行		
編集	産業技術総合研究所		
発行人	株式会社 実業公報社		
	代表者 林 光生		
発行所	株式会社 実業公報社		
	東京都千代田区九段北1の7の8 〒102-0073		
	Tel.(03)3265-0951 Fax.(03)3265-0952		
	http://www.jitsugyo-koho.co.jp		
	E-mail: jk@jitsugyo-koho.co.jp		
	振替口座 00110-6-32466		
	麹町局私書箱第21号		

© 2006 Geological Survey of Japan

●本誌は東京都の霞ヶ関政府刊行物サービスセンターに常備してあります。また、最寄りの書店でも注文できます。

地質ニュースに関するご意見は編集委員会へ